

設定しました。この渇水対策容量は大谷川を含む鬼怒川と利根川に対して補給されます。

このような計画の見直しにともない、新規の利水開発水量は、都市用水として最大約7.1 m³/秒、農業用水としてかんがい期平均約1.5 m³/秒となりました。なお、その約半分が栃木県内において都市用水および農業用水として利用される見込みです。

表7-1 思川開発事業の当初構想と現計画の対比表

		当初構想	現計画
(1)事業目的		洪水調節、流水の正常な機能の維持と増進、特定かんがい用水、都市用水	洪水調節、流水の正常な機能の維持と増進、特定かんがい用水、都市用水、異常渇水時の緊急水補給
(2)治水計画	南摩ダム	南摩川、思川の洪水被害を軽減する。	計画洪水流量130 m ³ /秒のうち125 m ³ /秒を調節し、南摩川、思川、利根川の洪水被害を軽減する。
(3)利水計画	行川ダム		計画洪水流量240 m ³ /秒のうち120 m ³ /秒を調節し、行川、黒川、思川、利根川の洪水被害を軽減する。
	南摩ダム	①不特定用水 南摩川、思川、利根川 ②都市用水 特定かんがい用水および都市用水合わせて 最大 17 m ³ /秒 ③特定かんがい 栃木県中央畑地帯 約4,000ha	①不特定用水 南摩川、思川、黒川、利根川 ②都市用水 最大7.1 m ³ /秒 (南摩ダム・行川ダム合わせて) ③特定かんがい 平均約1.5 m ³ /秒 (かんがい期)
	行川ダム		①不特定用水 行川、大谷川 ②都市用水 最大7.1 m ³ /秒 (南摩ダム・行川ダム合わせて)
(4)導水計画		①導水河川 大谷川、思川支川 (黒川、大芦川、荒井川) ②導水期間 大谷川 非かんがい期 思川支川 非かんがい期 ③取水制限流量 大谷川 2.44 m ³ /秒 思川支川 取水地点自然流量60%残す ④最大通水量 第1導水路 最大12 m ³ /秒 第2導水路 最大14 m ³ /秒 ⑤導水量 年間平均 約140,000千 m ³ 大谷川 約120,000千 m ³ 思川支川 約 20,000千 m ³	①導水河川 大谷川、思川支川 (黒川、大芦川) ②導水期間 かんがい期 大谷川 3月16日～9月20日 思川支川 4月1日～9月30日 非かんがい期 大谷川 9月21日～3月15日 思川支川 10月1日～3月31日 ③取水制限流量 かんがい期 大谷川 30 m ³ /秒 思川支川 6 m ³ /秒 非かんがい期 大谷川 9 m ³ /秒 思川支川 2.5 m ³ /秒 ④最大通水量 第1導水路 最大12 m ³ /秒 第2導水路 最大12 m ³ /秒 第3導水路 最大20 m ³ /秒 第4導水路 最大30 m ³ /秒 ⑤導水量 年間平均 約90,000千 m ³ 大谷川 約60,000千 m ³ 思川支川 約30,000千 m ³
(5)施設計画		①ダム施設 南摩ダム 堤高 約 115m 有効貯水容量 140,000千 m ³ ②導水路 第1導水路 (大谷川～黒川) 約10km 第2導水路 (黒川～南摩ダム) 約 9km 合計 約19km	①ダム施設 南摩ダム 堤高 約105m 有効貯水容量 100,000千 m ³ 行川ダム 堤高 約52.5m 有効貯水容量 4,500千 m ³ ②導水路 第1導水路 (大谷川～行川ダム) 約 3km 第2導水路 (行川ダム～黒川) 約 7km 第3導水路 (黒川～大芦川) 約 3km 第4導水路 (大芦川～南摩ダム) 約 7km 合計 約20km